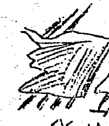

紡績諸君の闘争の背後には東京地方の全労働者が控えてゐる
労農党支部聯合会は決議した！
我々は一切の努力で兄弟諸君の応援に努力しよう

諸君の斗争は東京の全労働者を奮起せ、全労働者の団結の斗争は山勘ホン警察権力を叩きつけてしまふのだ
今一段のふんばりだ！
残留職工と提携しろ――

労農党
江東支部
本所区緑町四
四四、波多方

別記(三)

争議日報

NO.10
1930.6.12

工代ニ突如暴圧加ハル

一工場の労働者が一人の資本家と斗ったのでは労働者階級の解放はできぬ　あらゆる工場の労働者ががっしりと腕を組んで全資本家と斗って始めて労働者の解放ができるのだ

この意味に於いて星争議団本部は脱木部において大崎荏原地区工場代表者会議を召集した　参加工場十三　代議員三十三名組合同盟からも城南

廣からも関労からも全く組合政党の区別なく俺達の兄弟がゾクゾク集って来た
たか敵は自分にとって恐しいものはよく知ってゐる　見ろ！、官憲は徹底的弾圧をもって工代に臨んで来た！
争議団の佐藤君は「星の争議は只星の従業員のみでは勝てぬ　全市の労働者が一緒になって」して中止検束　組合同盟の安井君は「資本家の弾圧に抗して」して中止検束だ！、　官憲は大々的工代に全くビヘ半狂乱になったのだ！、こんなに会議を続行すると全代議員までも総検束されんとする空気が見えたので「この工代は今後常設的なものとし現在起つ

デモデ交渉委員ヲ送レ！、